

そうぜん どういせき たかぎ しょざい や さわしんこう
蒼前堂遺跡は花巻市高木に所在し、道路向かいには矢沢振興セ
ンターがあります。この周辺は、北上川と支流の猿ヶ石川、豊沢
川がそれぞれ合流する地域にあたるため、河岸段丘が発達してお
り、この段丘面には数多くの遺跡が立地しています。特に本遺跡
の南側に隣接する上台Ⅰ遺跡では、縄文時代早期（約 11,000 年前）
の竪穴建物跡群や無文土器が発見されています。

本遺跡の発掘調査は、平成 24 年に住宅建設に先がけて行われ
たもので、平安時代の竪穴建物跡 2 棟が検出されました。竪穴建
物跡の形はいずれも隅丸方形で、1 棟は 4.3×4.7m、もう 1 棟は
2.3×2.4m と小さいものでしたが、どちらも南壁東側にカマドが
造られていました。建物内からは坏、高台付坏、甕、壺などの土
師器が多く出土し、坏には墨で「自」または「目」といった文字
が書かれるもの、「丈」または「大」といった文字がへう書きさ
れたものがみつかっています。このように、本遺跡や周辺からは
縄文時代から平安
時代にかけての集
落跡がみつかって
います。



調査区全景 (2012 年調査)